

# 協働・連携事例集

2024

みんなで  
協働しようにゃ!



いいにゃクリエイター  
「かにゃお」



事例1	<u>“奇跡の木” モリングアを使った環境保護活動</u> ..... 1 日本新薬(株) × Save the earth in かいせい
事例2	<u>「食」を通じた交流がスタート</u> ..... 2 おむすびの会 × (一社)桑原・鬼柳めだか米の会
事例3	<u>小さなまちの大きな挑戦に頼もしい仲間が参画</u> ..... 3 (一社)やっほー × アマゾンジャパン合同会社
事例4	<u>イベント参加を通じた地元との関係強化</u> ..... 4 平塚まちなか活性化隊 × 中北薬品(株)
事例5	<u>事業所の空きスペースを活用した子どもの居場所づくり</u> .... 5 (NPO)湘南まぜこぜ計画 × パルスシステム神奈川
事例6	<u>ショッピングセンターと連携した「子ども食堂」</u> ..... 6 (特非)フードバンク湘南 × ラスカ平塚
事例7	<u>“ビーバー” × “地域循環油” = 地球を救う</u> ..... 7 (特非)セカンドリーグ神奈川 × (株)共創
事例8	<u>地域応援する仕組みを活用した連携</u> ..... 8 湘南電力(株) × おむすびの会
事例9	<u>アマチュアスポーツが紡ぎだす地域振興の可能性</u> ..... 9 (株)Link Sports × (特非)スエニヨデポルテス
巻末	<u>県NPO課による協働・連携のサポート</u> ..... 10 パートナーシップ支援事業／協働相談窓口／基金21・協働事業負担金
参考	<u>協働相談窓口を活用した事例</u> ..... 11

本事例集には、県NPO協働推進課へお寄せいただいた協働・連携に関する情報のうち、特にご紹介させていただきたい事例を関係者のご了承を得て掲載しています。

# 事例1 “奇跡の木” モリンガを使った環境保護活動

## 日本新薬株式会社 小田原総合製剤工場

### 団体概要

血液疾患や難病・希少疾患の薬剤を中心に、多品目の医療用医薬品を生産する工場（小田原市）

### 課題

CO2排出削減を目標に掲げ、その実現に向けた取組を模索

## Save the earth in かいせい

### 団体概要

「モリンガ※」を活用した環境保護活動を実施（開成町）  
※他の植物よりCO2吸収量が多い南アジア原産の樹木。栄養価も高く「奇跡の木」とも呼ばれる。

### 課題

モリンガによる地球温暖化対策の取組を、さらに普及したい



### きっかけ

2024年10月の「パートナーシップミーティングin県西」をきっかけに、「環境保護」の方向性が一致し、連携によりそれぞれの課題解決につなげる

### 取組内容

- 2025年6月、日本新薬が、Save the earth in かいせい から、モリンガの苗を購入して、工場敷地内で栽培を開始した。
- モリンガは南アジア原産で寒さに弱く、小田原市内では本格的な栽培はされていない。今年度は、Save the earth in かいせい から助言を受け、まずは試験的にプランタや鉢で10株を栽培してノウハウを得る。

#### 【今後の展望】

- 今年度、栽培のコツをつかむことができれば、次年度以降は栽培する規模を増やしていく。



### 協働のメリット

- ▼ モリンガという目新しいCO2排出量削減の取組としてPR効果が期待できる！
- ▼ Save the earth in かいせいのモリンガに関する専門性を得られる！

- ▼ 日本新薬との連携で、環境保護活動を拡大できる！



## 事例2 「食」を通じた交流がスタート

### おむすびの会

#### 団体概要

食に困っている家庭にロス食品などを無料配布するフードパントリー活動（大井町）

#### 課題

食品ロスを減らし、町民の食卓を支えるとともに、ボランティア参加をきっかけに、町民と地域のつながりづくりの一歩になりたい。

### 一般社団法人 桑原・鬼柳めだか米の会

#### 団体概要

野生メダカが生息する桑原・鬼柳地区の田んぼを守るため、この地域の農家から買い取った米を「めだか米」として販売（小田原市）

#### 課題

「めだか米」の販売を通して、地域の農業振興と生態系の保全を支えていきたい。



#### きっかけ

2024年10月の「パートナーシップミーティングin県西」で出会い、「食」という共通点があることから、お互いの活動を知ることからスタート。

#### 取組内容

- めだか米の会では、1年に1回、田んぼでみんなが集まって、美味しいものを一緒に食べたり、おしゃべりをしながら、人との人のつながりをつくるイベントを開催。
  - そこで、2024年12月に開催した「竹灯りと、温かいスープやなべ物を手に、おしゃべりの会」におむすびの会が招待されて参加。
  - 当日は、厳しい寒さだったが、温かい食事や竹灯籠の灯りに包まれ、地域の親子連れが田んぼを居場所として活用していることを実感したり、小田原市内で活動されている方々との出会うことができた。
- 【今後の展望】**
- 今後、めだか米の会のイベントをお知らせしてもらい、おむすびの会会員の子どもたちが田んぼで遊んだり、稲作を体験できる機会をつくっていきたい。

#### 協働のメリット

▽ 会員に普段とは違った体験の機会を提供できる！

▽ 大井町の住民にも、めだか米や自然環境のことを知ってもらう新たな機会を創出できる！



# 事例3 小さなまちの大きな挑戦に頼もしい仲間が参画

## 一般社団法人 やっほー

団体概要

こどもと地域みんなの居場所  
「ヤッホー」の運営（大磯町）

課題

活動を応援してくれる支援者  
（地元事業者等）とのつながりを大切に、安定的に活動を継続

## アマゾンジャパン合同会社 平塚デリバリーステーション

団体概要

ネット通販の配送に特化した  
物流拠点（平塚市）

課題

社の方針として地域社会への  
貢献にさらに積極的に取り組む

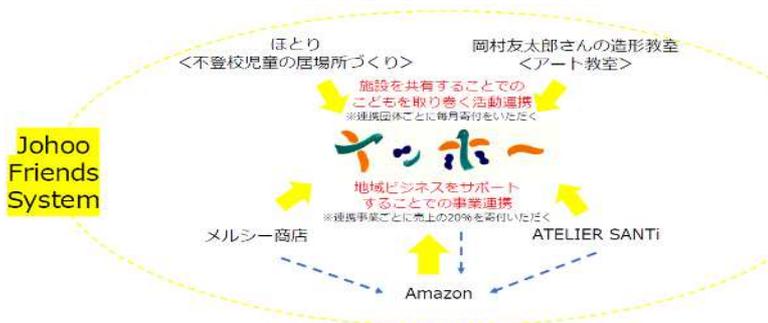


きっかけ

2025年1月の「パートナーシップミーティングin平塚・大磯・二宮」で  
やっほーの事例発表を聞き、アマゾンが共感したことがきっかけとなって、  
「Johoo Friends System（ヤッホーフレンズシステム）」に加わった

取組内容

- 「Johoo Friends System」とは、企業等が「ヤッホーフレンズ会員」として、活動をともして寄附を募ったり、公益性の高い収益事業を連携して、やっほーの安定的な運営を支える仕組み。



- 2025年3月、やっほーが運営する「ヤッホー食堂」でつくったお弁当をアマゾンが事業所従業員のために買い取り、その収益の一部をヤッホーへ寄附してもらう取組を開始した。7月のセールでも実施した。

### 【今後の展望】

- フレンズ会員である地域事業者の商品を、アマゾンが従業員のために買い取って、その収益の一部をヤッホーへ寄附していただくなど、フレンズ会員のメリットにもなるような取組も展開していく。

協働のメリット

- ▼ 寄附収入が増えることで、中長期の安定運営が見込める！
- ▼ フレンズ会員にも商品販売の機会を創出できれば、会員みなさんがwin-winの関係となる！

- ▼ 従業員を巻き込んで、無理なく自然な形で地域貢献に取り組める！



# 事例4 イベント参加を通じた地元との関係強化

## 平塚まちなか活性化隊

団体概要

平塚の駅前地域の活性化に取り組む団体（平塚市）

課題

たくさんの方々と協力して平塚駅前の活性化に取り組みたい

## 中北薬品株式会社 厚木支店

団体概要

医療品・医薬品の卸売販売（厚木市）

課題

平塚市と連携協定を締結しており、平塚での地域貢献に寄与したい



きっかけ

2025年1月の「パートナーシップミーティングin平塚・大磯・二宮」で出会ったことをきっかけに意気投合

取組内容

- 2025年3月に予定されていた、地元の防災力強化と被災地支援を目的する「ひらつな祭」で一緒にできることを模索した。
- 中北薬品が面識のある平塚中郡薬剤師会も参加予定だったため、平塚まちなか活性化隊が仲介して、イベント当日にできることを検討してもらうことに。

- 結果、平塚まちなか活性化隊が運営する『防災・減災スタンプラリー』に、中北薬品が自社製品のPRも兼ねて、お茶・飴などの景品を協賛した。

### 【今後の展望】

- 今後も平塚の中心市街地の活性化（駅周辺地域での防災に関する取組）で連携をしていきたい。

協働のメリット

▼ 平塚のまちをフィールドとして活動する企業と連携することができた！

▼ 活性化隊の仲介で、自社製品のPR、地域貢献、平塚地域で活動している団体とのつながり強化が実現！



# 事例5 事業所の空きスペースを活用した子どもの居場所づくり

## NPO法人 湘南まぜこぜ計画

### 団体概要

「寺子屋ハウス」などの  
子どもの居場所づくり(藤沢市)

### 課題

すべての子どもが自分で来られるように、直営の居場所運営で培ったノウハウを活かして、共創による居場所を小学校区程度ごとに地域のパートナーと広げたい

## パルシステム神奈川 湘南センター

### 団体概要

生協の宅配事業の配送センター  
(藤沢市)

### 課題

事業所内の空いてるスペースを  
地域の人たちの役に立てるように  
活用したい



### きっかけ

2024年からパルシステムが、事業所内の空きスペースを子どもの居場所や学習支援に活用できないかと、湘南まぜこぜ計画に相談。地域の子どものための祭り開催を経て、一緒に居場所づくりを進める運びに

### 取組内容

- 2025年3月、居場所づくりの第一歩として、衣類交換会や駄菓子販売などの「春からパル祭り」を開催。パルシステム組合員へのチラシ配布や近隣町内会での回覧などにより地域へのPRを図った。
- 夏休み中の7・8月には、おためしオープンとして「パルシステム de 寺子屋ハウス」を開催。パルシステムがチラシ印刷や近隣小学校への挨拶。湘南まぜこぜ計画が下校時の小学生へのチラシ配布や、ボランティア・大学生などの当日スタッフを確保して駄菓子屋を展開。パルシステムのスタッフも一緒に協力して運営。

#### 【今後の展望】

- 地域の方や学生にボランティアで参加してもらい、定期的に催しを開いて、地域と一緒に「家でも学校でもない、ふらっと立ち寄れる居場所」に育てていく。



### 協働のメリット

- ▼ 自ら「場所」を持たなくても、「運営」に関わることで「こどもの居場所」を広げることが可能！
- ▼ パルシステム組合員のネットワークを通じて、認知度が向上！

- ▼ 事業所内のスペースを有効活用して協働による地域貢献活動を実現！
- ▼ 湘南まぜこぜ計画の運営ノウハウを活用できる！



## 事例6 ショッピングセンターと連携した「子ども食堂」

特定非営利活動法人  
フードバンク湘南

団体概要

寄付された食品をひとり親家庭などの支援が必要な方へ無償提供するフードバンク事業（平塚市）

課題

ひとり親家庭の親子向けの“体験型の支援”を拡充したい

(株)JR横浜湘南シティクリエイト  
ラスカ平塚

団体概要

ラスカ・シアルなどのショッピングセンターの管理・運営（平塚市）

課題

地域との連携を図り、魅力を高め、地域社会とともに持続的な発展を目指す



きっかけ

2024年から、フードバンク湘南は、ラスカ平塚の協力で店内イベントスペースでフードドライブ（食品を集める活動）を実施。これをきっかけに、飲食店のフードロスを削減したいというラスカ平塚の意向と、ひとり親家庭の親子に体験型の支援を届けたいというフードバンク湘南の思いが一致

取組内容

- ラスカ平塚から出る販売期限切れでもまだ食べられる商品や、スタッフ向けのフードドライブで集まった食材を有効活用し、ひとり親家庭の親子を「子ども食堂」にご招待する取組を実施。
- ラスカ平塚内の会場に、各飲食店が食事を提供するスタイル。また、館内全店舗への呼びかけで文房具なども集めて、参加者へのお土産に。プロのシェフによる食事と落ち着いた空間に癒される親子が多数いた。  
（第1回・春休み）「EATWO」のイタリア料理・12名参加  
（第2回・GW）「ラーメン石狩」のビュッフェ形式の中華料理・26名参加  
（第3回・夏休み）「アマルフィイホワイトガーデン」のピザ作り体験・35名参加  
（第4回・夏休み）「高久パン」のランチボックス・16名参加

### 【今後の展望】

- 今後も、長期休暇中に子ども食堂を開催する予定。



協働のメリット

▼ 企業との協働で、フードバンク利用者に“新たな体験”（子ども食堂）を提供できる！

▼ 食品ロスの削減とともに、地元への貢献ができる！

▼ 子どもたちに素敵な思い出を作り、将来の”ラスカファン”を増やす！



# 事例7 “ビーバー” × “地域循環油” = 地球を救う

## 特定非営利活動法人 セカンドリーグ神奈川

団体概要

フードバンク活動「ビーバーリンク」などの中間支援（横浜市）

課題

ビーバーリンク参加者の増加による活動の活性化

## 株式会社共創

団体概要

廃食油の回収・再利用から地域内の資源循環を促進する地域循環油プロジェクト（横浜市）

課題

廃食油回収による地域循環モデルを広める



きっかけ

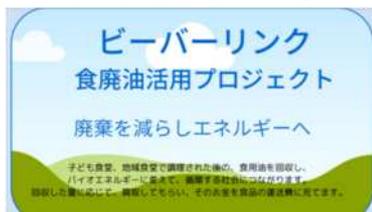
セカンドリーグが共創から廃食油の有効活用について相談を受けたことがきっかけ

取組内容

- 共創は、回収した廃食油をバイオエネルギーに変えて、地域内で循環させる取り組みを行っている。
- セカンドリーグのマッチングにより、「ビーバーリンク」に参加している子ども食堂などの運営団体が、調理後に生じる廃食油を共創に提供することになった。
- 当初は各団体が廃食油を回収拠点に持ち込む方式だったが、今では共創が各団体を伺って回収する方式に変わり、7～8団体が継続的に提供する形に定着。地域の家庭から出た廃食油を集めて提供している団体も。

### 【今後の展望】

- 「ビーバーリンク」参加団体が、地域のお店や個人に廃食油の回収をよびかけるなど、参加団体周辺にこの活動が波及する動きが見られる。団体から団体へ、人から人へ、活動への参加者がより増える見込み。



協働のメリット

- ▼ 中間支援組織のセカンドリーグが関わることで、多くの団体を巻き込んだプロジェクトに発展！
- ▼ 廃食油の回収量に応じて共創から寄附金をもらい、フードバンク事業などに充当できる！

- ▼ セカンドリーグのつながりを活用することで、新たな団体を巻き込んだプロジェクトに拡大！



## 湘南電力株式会社

団体概要

電力の地産地消に取り組むとともに、電気料金の1%を地域貢献活動に還元する小売電気事業者（小田原市）

課題

電気料金の1%を地域に還元する「地域応援メニュー」により、地域を活性化したい

## おむすびの会

団体概要

食に困っている家庭にロス食品などを無料配布するフードパントリー活動（大井町）

課題

食品ロスを減らし、町民の食卓を支えるとともに、ボランティア参加をきっかけに、町民と地域のつながりづくりの一歩になりたい



きっかけ

湘南電力と深いつながりがある企業の仲介により、おむすびの会の取組を知ってもらう機会ができた

取組内容

- 湘南電力では、電気料金の1%を契約者自らが選ぶ各応援プランの応援金として還元する取組を実施している。
- 「応援プラン」には、県内各地の地場産業、祭りといった伝統行事、観光イベントなどを支援する「地域活性化応援プラン」、湘南エリアを中心とした海岸清掃美化活動などの取組を支援する「湘南ライフスタイル応援プラン」、県内をホームタウンとするプロサッカークラブの湘南ベルマーレを応援する「湘南ベルマーレ応援プラン」をはじめ、湘南電力が多種多様なプランを選りすぐり、契約者の”応援したい”に答えている。
- おむすびの会の活動に共感した湘南電力が、「地域活性化応援プラン」でおむすびの会を応援。
- おむすびの会では、食品の寄附が一気に減る夏場の2025年8月に、応援金で食品（9品）を購入し、全登録家庭（55軒）に配布した。



協働のメリット

▼ 契約者の“誰かを応援したい”という気持ちと、地域活性化に取り組むNPO等を仲介して、企業としての社会貢献を果たすことができる！

▼ 応援金は使用用途が一任されており、直接的な支援につながる配布食品の購入に充て、フードパントリー活動を活性化できる！



株式会社  
Link Sports

団体概要

スポーツを軸に、チーム活動推進アプリ「Team Hub」やWebメディアなど、ITを活用したサービスを展開  
(東京都渋谷区)

課題

ITを通じてすべての人がスポーツに触れる瞬間を作っていきたい

特定非営利活動法人  
スエニヨデポルテス

団体概要

小学生から大人までの幅広い世代に向けた、サッカー教室、ダンス教室などを開催(相模原市)

課題

スポーツを通して、地域貢献、住民の健康増進に寄与したい



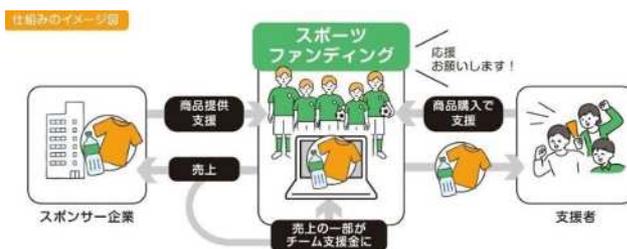
きっかけ

Link Sports が立ち上げた「スポーツファンディング」にスエニヨデポルテスが関心を持ったことがきっかけ

取組内容

- Link Sports は、多くのアマチュアスポーツチームが抱える活動資金獲得の悩みを解決するため「スポーツファンディング(※)」という仕組みを作り、利用を希望するチームに無償で提供している。

(※) 申込のあったチームとスポンサー企業のマッチングをLink Sportsが支援。チーム関係者(メンバー、OB・OG、保護者、ファン等)がスポンサー企業の商品を購入すると、売上の一部が支援金としてチームへ還元



- スエニヨデポルテスは、こども達を対象とした「オシムkickoff交流大会」の開催費用の調達のため、この制度を活用。開催地である群馬県みなかみ町の事業者をスポンサーにして、大会参加者に地元のサービスや特産品を購入してもらうことで、まちの活性化にもつなげた。

協働のメリット

▼ スポーツファンディングがチーム・企業支援だけでなく、地域振興にもつながることを実証できた！

▼ スポーツファンディングの活用により、サッカーを通じた青少年育成と地域振興が実現！



## 企業・NPO・大学パートナーシップ支援事業

地域課題の解決に関心がある人に出会える！

複雑化・多様化する地域課題の解決に向けて、  
企業、NPO、大学など多様な主体との出会いと連携のきっかけの場を、  
県内各地で開催しています。

神奈川県 パートナーシップ支援事業



## 企業・NPO・行政等協働相談窓口

県が協働・連携先のマッチングを支援！

連携先を見つけたい方向けに、電話・Zoom・対面などにより  
無料で相談を受け付け、県が連携先のマッチングを支援します。

神奈川県 協働相談窓口



## かながわボランティア活動推進基金21・協働事業負担金

県との協働で社会課題を解決できる！

ボランティア団体等と県が協働すると  
一層効果が期待できる事業の事業経費を負担します。  
(令和8年度実施事業の募集は終了)

基金21 協働事業負担金



各事業の実施・募集などの最新の状況は、ホームページをご確認ください。



## 活用事例1

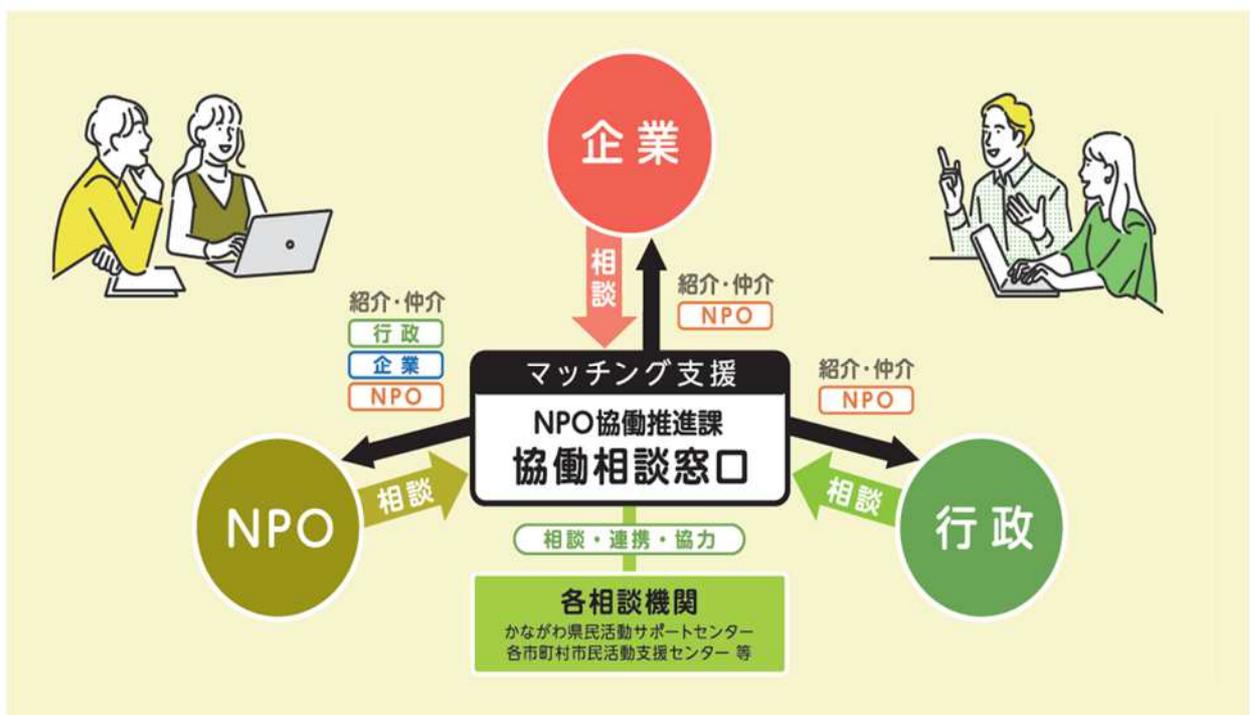
企業 × NPO

- 2024年6月に協働相談窓口へ相談があり、県が、企業と被災者支援NPOの連携をコーディネート
- 企業から、備蓄していた災害用簡易トイレ4,400回分を寄附したい旨の相談を受け、能登半島地震の被災者を支援する県内のNPO2団体につなぎ、能登半島地震の被災地（珠洲市等）への寄附が実現。

## 活用事例2

企業 × NPO

- 2024年11月に協働相談窓口へ相談があり、県が、企業と日雇い労働者支援NPOとの連携をコーディネート
- 企業が備蓄していた災害時炊き出し用白飯550食分を寄附したい旨の相談を受け、日雇い労働者等を支援する横浜市内のNPOにつなぎ、寄附が実現



協働・連携に関する情報をお寄せいただけるとうれしいにゃ！



『協働・連携事例集2024』

定価 ~~お魚1ひき~~ いまだけ無料

発行 神奈川県 政策局 政策部 NPO協働推進課

[Email] [kyodo0223@pref.kanagawa.lg.jp](mailto:kyodo0223@pref.kanagawa.lg.jp)

[電話] 045-210-3703(直)